

## I 単元指導計画(4観点)と学習指導案【科目:家庭基礎】

1 単元・小単元	II 暮らしをつくる 第5章 衣生活
2 小単元の目標	「衣生活の達人になろう！」の合言葉のもと、より豊かな衣生活を営むために、ライフステージや目的に応じた被服の機能と着用について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようさせるとともに、被服材料についても理解を深め、被服の計画・管理に必要な知識と技能を身に付けさせたい。 国際的な課題となっているアパレル業界が抱える環境問題について理解し、消費者として取り組むべき行動を考えさせたい。
3 育てたい資質・能力	国際連合が定めた持続可能な開発目標（SDGs）を意識させ、環境保全、資源の有効利用の観点から購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄まで考えた衣服計画が実践できる消費者としての能力を身に付けさせたい。
4 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SUSTAINABLE FASHION（環境省）</li> <li>・よりよい衣生活と環境の創造をめざして（花王株式会社） ～高等学校向け家庭科授業プログラム～</li> <li>・『“届けよう、服のチカラ”プロジェクト』（ユニクロ）</li> <li>・明石スクールユニフォームカンパニー（本校制服業者）</li> <li>・服育クロスワード（服育 net 研究所）</li> </ul>

## 5 指導と評価の年間計画

主な学習内容	ねらい	学習活動	時間	活動における具体的評価規準				評価方法
				関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
衣服の役割	・個性の表現と保健衛生上、社会生活上の機能に考慮した着装に気付かせる。	・服のイラストから、重視する機能が変わることを理解する。	1	①人間と衣服の関わりについて理解し、TPOに合わせた服装ができる。			①衣服の機能を理解することができる。	ワークシート
衣服の材料	・衣服がどのように作られているか理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糸は繊維からできていることを確認する。</li> <li>・布の構成を理解する。</li> <li>・繊維の種類と特徴を知る。</li> </ul>	3		①繊維が衣服になるまでの過程を説明できる。	①綿花から糸をつくることができる。		作品評価
				②織物、編物、不織布を観察して特徴の違いを理解し、制服と結び付けることができる。			②制服のアイテムの布の構成を観察し、特徴を理解することができる。	ワークシート 布の観察 発表評価
					②制服生地組成を知り、混紡によって生まれる特徴を着装と結びつけることができる。	②天然繊維を判別することができる。	③天然繊維と化学繊維の特徴を理解し、用途に結びつけることができる。	服育クロスワード
衣服の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の適切な管理により、快適に長く着ることができるようさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洗濯の目的と方法を科学的に理解し、素材にあった洗濯ができるようにする。</li> <li>・ドラム式、縦型洗濯機の違いを理解する。</li> <li>・制服を自らが</li> </ul>		③環境に配慮した洗濯をすることができる。		③衣服の組成、取り扱い表示に合わせた、手入れをすることができる。	④取り扱い表示を正しく読み取り、理解することができる。	ワークシート
					③生活様式など個に合わせた洗濯機を選ぶことができる。		⑤ドラム式、縦型洗濯機のメリット、デメリットを理解することができる。	ワークシート
				④制服の生地に施されている特殊加工を知		④家庭で制服の洗濯ができる。		ワークシート 特殊加工

		庭で管理する方法を知る。 ・ボタン付けの技術を身に付ける。		り、制服の管理を身近なものにすることができる。			比較実験
						⑤安全に考慮し、ボタンを正しく付けることができる。	作品評価
これからの衣生活	・アパレル産業の環境への問題点と対策を理解させる。	・消費者がとるべき行動、意識を身に付ける。			④サステイナブルファッションのために起こす具体的な行動、意識をあげることができる。		ワークシート 発表評価
日本の伝統文化	・伝統工芸である組み紐に興味をもたせる。	・日本の民族衣装である和服と組み紐を知る。		⑤伝統文化に興味をもつことができる。		⑥紐を結ぶことにより作品作りができる。	作品評価

6 学習指導案

科目名	家庭基礎	クラス	1年	使用教科書	新家庭基礎（教育図書）
単元名	Ⅱ 暮らしをつくる 第5章 衣生活				
本時の主題	サステナブルファッション（9時間目／11時間）				
指導観	布を資源として一切無駄にせず、大切に有効利用した時代から、高度経済成長以降、大量生産・大量消費の時代となり、衣服に関する扱い、考え方は大きく変化した。このような時代の中で家族や地域の一員として家庭生活を営んでいることを自覚し、ライフスタイル、ライフステージに応じた安全で快適かつ健康な生活を営むための衣生活について理解を深める。また、環境負荷低減を目指した衣生活に積極的にいかかわることで、課題や問題点を発見、協働的に学び解決することで深い学びへとつながっていく授業実践をめざす。				
本時の目標	アパレル産業は、製造にかかるエネルギー使用量やライフサイクルの短さなどから環境負荷が大きく、国際的な課題となっている。近年、衣服の生産から、着用、廃棄に至るまでの環境負荷を考慮したサステナブルなファッションへの取り組みは急速に広がっている。本時では、私たちの衣生活の背景をしっかりと見つめることから、個人の価値観にとらわれないだけでなく、消費者として、企業、社会がどのように取り組めばよいかを考えさせたい。				
選	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導	
導入 5分	単元目標の確認 問いの設定	衣生活の達人になろう！ SDGs 『サステナブルファッション』って何？ 何すること??			
	個人活動①	○予想される生徒の反応 ・UNIQLOの活動 ・服のリサイクル、リユース ・服のリペア ・古着を利用する			
展開 40分	クイズ	1 家庭から手放される服のリサイクル、リユース率は？ 2 日本で売られている衣類のうち海外からの輸入率は？ 3 ジーンズ1本（綿1kg）作るのに使われる1人分の飲み水は？ ○Microsoft formsで集計、提示		・異なる観点から見た資料を与え、その資料のエキスパートになるよう伝える ・自分の言葉でわかりやすく表現するよう促す	
	エキスパート活動	資料A バングラデシュ縫製工場の崩落事故 資料B 国内アパレル供給量・市場規模・衣類購入単価の推移 資料C アラル海の砂漠化 資料D マイクロファイバーによる海洋汚染 ○予想される生徒の反応 ・アパレル業界に関わる問題のひとつを知る			
	ジグソー活動	4人4種類の資料のエキスパートが集まり、自分の資料を説明する ○予想される生徒の反応 ・4種類の資料からアパレル業界に関わる問題が多方面で起きている事を知る	評価規準 【思考・判断・表現】 『サステナブルファッション』のために起こす具体的な行動、意識を挙げる	・エキスパート活動で分かった内容を自分の言葉で説明するよう促す	
	クロストーク活動 問いの答え	サステナブルファッションとは、何か話し合い、発表する ○タブレットに入力、発表 ○予想される生徒の反応 ・原料の生産から製造、販売、消費、廃棄に至るまでの環境、労働問題などアパレル産業に潜む問題を知った上で衣生活を営む	〈評価方法〉 ワークシート Aの例 ・衣服を手放す時のことだけでなく、生産、製造、消費などにも配慮した行動、意識を挙げるができる	〈Bを実現するための指導〉 ・アパレル業界全体で考えるよう声掛けをする 〈Cへの手立て〉 ・これまでの話し合いから見つけられるよう促す	
まとめ 5分	個人活動② 本時のまとめ	企業が取り組んでいるサステナブルエシカルな活動を知る 『サステナブルファッション』のために起こす具体的な行動、意識を挙げる			

□工夫している点

・総合的な探究の時間とコラボして6月から半年かけて取り組んだ「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」と地区の夏季教員研修で受講した講演「服の環境課題と取組み」【㈱ファーストリテイリング】の具体的な事例や内容を数多く盛り込むことで、より生徒にとって身近でわかりやすい授業なるように心掛けた。

・本時のサステナブルファッションを考えさせる上で、3つのクイズとジグソー活動に用いた4種類の資料の選定は重要で内容、分量、難易度をよく検討し決定した。クイズと資料からは、アパレル業界に関わる諸問題が多方面で起きていること、その背景、その解決のために企業が取り組んでいる具体的な対策を伝えることでサステナブルファッションとは何か、今後消費者としてどのような意識をもって行動していくべきか考えさせることができた。

・エキスパート活動やジグソー活動を行うことで、生徒が自分自身の言葉でまとめ話すことができ、主体的に学ぶ姿勢が見られた。

□実践後の評価結果

	学習活動における 具体の評価規準 (B)	「十分満足できる」と 判断される状況 (A)	「努力を要する」と 判断される状況 (C)
評価	評価規準 【思考・判断・表現】 『サステナブルファッション』の ために起こす具体的な行動、意識を 挙げる。	授業を通して自分で課題を理解し、 今後の生活の中でもつべき意識がイ メージできる。	具体的なイメージが乏しい。 未記入
生徒の状況	・生活の中で、自ら取り組めるため の行動、意識を持つことができる。	・購入、消費、廃棄だけでなく、生 産、製造、環境に関わるところまで 配慮した行動、意識を持つことが できる。	・単発的な意識しかない。 ・未記入
記述例	・要らなくなった服は捨てるのでは なく、お下がりとして知り合いに譲 る、店頭のリサイクルBOXを利用 するなどリユース、リサイクルす る。 ・着ない服は買わない、古着などの リサイクル品をなるべく購入する。 ・定期的にクローゼットを整理する ことで何が必要か把握し、本当に必 要な服のみを購入し、長く着られる ように洗濯などの手入れ、保管を行 う。	・サステナブルファッションは一 人でどうにかできることではなく、 栽培・製造・販売過程すべてに関わ る人も含まれると初めて知りました。 労働環境や自然への影響など着 るだけの人には分からない苦労や苦 痛に感謝しながらこれからは生活し ていきたいです。 ・今回の資料を通してアパレル業界 の環境問題やそれに対する対応を学 ぶことができた。これから服を買う ときは、衣服の大量供給、価格の低 下により焼却や埋め立てによる環境 破壊が増えていることからできるだ け最小限に抑えることで、少しずつ 解決への手助けになる行動を心掛け たい。	・リサイクルする。 ・服を大切に着る。

□授業後の課題と改善

ICT活用に関して  
衣生活分野への導入として参加したユニクロプロジェクトのポスター・チラシ作りでは、タブレットを使い、社会と情報の授業で学んだWardの技術を駆使し、ほとんどの生徒の作品が配布できるレベルに完成することができた。Microsoft Formsは、アンケート、クイズ、グループワーク発表の場面で使用した。本校の生徒用タブレット使用の現状は、オンライン学習が中心で1年生はMetaMoji Classroomを取り入れている教科がなく、研究授業までに使いこなせるだけの教員、生徒双方の準備ができなかった。今後は学校全体として積極的な導入が課題となる。